

露地栽培原木しいたけの産地再生に向けて ～しいたけ生産技術指導地域リーダーの活用～

1 はじめに

胆江地区では、原子力発電所事故の影響により国の出荷制限指示を受け、露地栽培原木しいたけの生産・販売中止を余儀なくされました。

地域のほだ木のほとんどが放射性物質濃度の指標値を超過し、これを機に生産を中止する方がおりましたが、新たに植菌を開始する生産者も少しずつではありますが、増加してきております。

2 生産者の支援体制

県南広域振興局では、原木しいたけの出荷制限解除後の安定した生産体制の確立を支援するため、種菌メーカー等民間技術者による「県南広域原木しいたけ産地再生応援隊」(以下「応援隊」)を今年5月に結成しました。

応援隊では、生産者への巡回指導・研修会の開催や関係者による情報共有により、しいたけの産地再生の取組を支援していくこととしています。

3 しいたけ指導リーダーによる指導

胆江地区では、応援隊による活動のほかに、地域のしいたけ生産技術指導リーダーの協力を得て、生産者への巡回指導を行っています。

指導は、岩手県林業普及協力員でもある菊池 司氏に依頼しています。氏は、自らもしいたけ生産者であり、森林組合や種菌メーカーの指導者として長年しいたけ栽培指導に従事されてこられました。

氏には、経験の浅い生産者を対象に、ほだ場

の巡回指導をお願いしています。



【生産者からの聞き取り】

【活着状況の確認】

4 しいたけ栽培技術研修会の開催

去る12月2日に開催した「胆江地区しいたけ栽培研修会」においても、菊池氏を講師にしいたけ栽培の基本について研修しました。

氏からは、かつて江刺市が県内有数のしいたけ産地となった経緯などのお話もあり、「地域が一体となった生産再開が不可欠であり、少しずつでも植菌を続けていこう」と生産者へ呼びかけました。



【栽培技術研修会】

5 おわりに

振興局では、来年度からは、指導リーダー等の生産者を応援隊に加え、他の生産者を指導する仕組みを構築するなど、地域一体となった産地再生に向けて、さらに取組を進めていくこととしています。